

区連会 資料 3-1

令和 4 年 10 月 18 日

旭区連合自治会町内会長 各位
自治会町内会長 各位

旭区社会福祉協議会
事務局長 半田博之
旭区役所福祉保健課
福祉保健課長 石津 雄一郎

令和 4 年度旭区地域福祉保健計画推進研修会について（御報告）

日頃より、第 4 期旭区地域福祉保健計画の推進に御協力いただき御礼申し上げます。

さて、令和 4 年 9 月 7 日（水）に「旭区地域福祉保健計画推進研修会～誰かに寄り添える地域を目指して～」を実施いたしましたので、次のとおり御報告させていただきます。

1 概要

- (1) 実施日：令和 4 年 9 月 7 日（水）
- (2) 参加者数：153名

2 実施内容

詳細は別添報告書のとおり

【問合せ先】

旭区社会福祉協議会（担当：松橋、竹下、山田、齊藤）

電話：392-1123 / FAX：392-0222

旭区役所福祉保健課（担当：伊藤、嘉向、加賀谷）

電話：954-6143 / FAX：953-7713

令和4年度 旭区地域福祉保健計画推進研修会 実施報告

日 時：令和4年9月7日（水） 13：30～15：30
会 場：旭公会堂 ホール
主 催：旭区役所・旭区社会福祉協議会
参加者数：153名
内 容：

テーマ『誰かに寄り添える地域を目指して』

◆パネルディスカッション【旭区での取組・事例紹介】

1. 孤立させない！つながり食料支援事業、ひとり親家庭向け旭区産野菜無料頒布会

<パネリスト>

鶴ヶ峰地区東地区民生委員児童委員協議会 民生委員 廣川 澄枝氏
旭北地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員 栗城 明日香氏

この取組は、民生委員・児童委員が、野菜を届けながら顔見知りになることで相談のあった世帯等と何気ない会話を交わし、顔見知りになることで、「社会的孤立を防止し、困ったときにSOSを発信できるつながりづくり」を目指しています。また、コロナ禍で影響を受けたひとり親家庭に向けた支援を行っています。各事業を通して、どんな思いで、繋がり続けているのかお話をいただきました。

講演会の中では「相手が何を望み、自分がどう関わるのか考えるようになった」、「一人でできることは限られるため、周りを巻き込みながらできることを続けたい」というお話がありました。



2. 食品等無料頒布会・生活相談会

<パネリスト>

万騎が原地区社会福祉協議会 会長 石原 泉氏
万騎が原地区社会福祉協議会 事務局長 菊池 南欧子氏

コロナ禍で生活にお困りの方や不安を抱える方が多くなり、「自分たちでも何かできないか」と考え、食品・日用品等の無料頒布と生活相談を行いました。

頒布会で出会った方々と繋がり続けるためにはどうしたらよいか考え、ひとり親家庭向けのイベント実施や居場所づくり等、継続して取り組みを行っています。

講演会の中では、「(頒布会等) イベントはあくまできっかけで、続けていくことが大切」、「ご縁を大切にしながら、地区社協だからこそできることを地域のご協力を得ながら、実施していきたい。また、誰もが参加しやすい雰囲気や手伝ってもいいよと言しやすい環境を作っていきたい」というお話がありました。



3. 子どもの居場所づくりミーティング

<パネリスト>

土と愛子供の家保育所第2 施設長 保足 昌之氏

地域で気になる子どもたちの様子の共有を通じ、その家庭全体の支援について、地域住民（地区社協、民児協）と関係機関（保育所、障害者地域作業所、児童家庭支援センター、地域ケアプラザ）がそれぞれの強みを活かして、地域で何ができるか、検討を進めており、その思いについてお話をいただきました。

講演会の中では、「保育所だけでは限界がある。今まで以上に（保育所だけではない）広い繋がりをどう作っていけば良いか考えたい」というお話がありました。



【コーディネーター】

平野 友康氏（横浜創英大学講師）

◎コロナ禍によって社会的孤立が浮き彫りになった。

住民同士の関係が一層希薄となり、ますます

「誰にも困ったを伝えられない」という状況にある。

◎大切なのは、悩みを抱える当事者と問題を解決しようとする担い手をどうやってつなぎ合わせるか（＝支えあい）。

私たちは、悩みを抱える当事者だけでなく、問題解決をする担い手でもある。

◎地域福祉の最大の特徴は「住みやすい町にするため誰もが参加できる」こと。つまり、誰もが支える（解決できる力）をもっていること。

◎地域住民の「困った」と地域の「解決できる力」をつなぐため、地域の実状にあわせ地域の仕組みをつくることが、地域福祉保健計画の目的である。



アンケート結果（抜粋）

- ・人との繋がりが持ちにくい人と関係性を築くには、日常生活の延長線上にいることが大切だと、事例を通じてより実感できた。
- ・民生委員は、見守りの対象が高齢の方が多数ですが、若い世代の方とお近づきになり、毎月お会いするうちに、何に不安を持っていらっしゃるのが分かり、とても勉強になりました。それをどう解決へ結びつけられるかが、今後の課題だとわかりました。
- ・来場者数にこだわるのではなく継続して繋がっていくことが大切という地域の方の言葉に心強く思いました。
- ・皆さんと協力して少しでも力添えできればいいかな。頼み上手になればいいかな。ゆるやかに繋がっていくのが大事。
- ・無料頒布会で終わるのではなく、そこをきっかけにして、地区社協として何が出来るか、地域と協力してサロン活動を活発にしていく等参考になりました。
- ・その人の気持ちになり、無理をしないで寄り添ってあげる。事例もとても良かったです。
- ・なにかしてあげるという事ではなく、日常のなにげない事から人との繋がり、関係を作っていく。
- ・（実現が）難しいことでも、それをつぶすのではなく、どうやったらできるんだろうと皆で考えていくことが大事だと思った。
- ・どの様にしたら相談者が増えるのか。地道な活動が大事であると考えた。
- ・平野先生もわかりやすかったですし、パネリストの方々の実体験も話してくださったので、身近に感じられました。